

(様式2)

学校関係者評価報告書

(愛媛県立小松高等学校)

学校番号 (11)

評価実施日		令和3年2月16日(火)		
委員	氏名	所属等		備考
	池内 修	学校評議員	自治会役員	
	渡部 雅子	学校評議員	国際ソロプチミストいしづち前会長	
	曾我部米治	学校評議員	小松公民館長	
	曾我部研二	学校評議員	元小学校校長	
	真鍋 明	学校評議員	マルブン社長	
	岡田 光	西条市立小松中学校長		
	藤原 正三	西条市立小松小学校長		
	藤原 芳宏	PTA会長		
	川又ゆかり	PTA副会長		
	吉田 祥一	PTA副会長		
	青野 裕美	PTA副会長		
富永 梓	PTA副会長			
評価・提言等		提言等に対する改善方策等		
1 今年度の最終評価について (1)学習指導 生徒に対するアンケート結果から、日々の授業にまじめに取り組んでいるにもかかわらず、授業の内容が理解できていないという生徒が一定数いると考えられる。個々に対応した学習指導が必要である。 平日での家庭学習時間の120分という目標が達成できていないのは、コロナ禍の影響できめ細かい指導ができなかったという要因が考えられる。資格取得はよい結果となっている。指導方法の改善や魅力ある授業を通して、生徒がどのように変容したかということを大切にしてほしい。 公開授業にも来させていただいたが、全体的に落ち着いた集中した授業態度が見られた。授業の満足度や学習意欲が向上しているのは、すばらしい。リモートでの他校との授業交換などを行っており、今後も研修を重ねてほしい。 (2)生徒指導 年間出席率が高くなっており、通学時の元気な挨拶も気持ちがよく、小松高校のまじめな一面が見られる。遅刻ゼロの達成が難しいのは、一部の生徒によると思うが、分析を行い、よりきめ細かな指導を望む。 登下校時のヘルメット無着用は減ってきていると感じるが、まだ見かけることがある。また、伊予小松駅と学校との間での歩きスマホやイヤホン装着、道に広がって歩くことなど一部であるが、危険であると感じる。地域でも指導に協力したい。		課題については、個に応じた内容や適切な分量にしている。同類型内でも、習熟度によって考査問題の選択問題を増やすなどして、生徒一人一人が、達成感を得られる工夫をしながら学校全体で学習に取り組む雰囲気醸成したい。 年度当初臨時休業のため、基本的な生活習慣の定着を図りにくかったとともに、スマホやゲームに時間を取られる生徒が増えていることが理由と考えられる。面接を増やしたり家庭学習時間調査で生活状況を確認したりして生活習慣の見直しを図っている。キャリアパスポートを活用するとともに、漢字検定や英語検定、商業検定などの取得を通して、達成感や自己有用感を高めるようにしたい。 今年度各ホームルーム教室に電子黒板やWi-Fi等、ICT環境が整備された。それにともない、教員の授業改善も進み、アクティブ・ラーニングの視点でのICT活用など工夫した授業展開も研究して、生徒が興味を持って授業に参加できる工夫を行っている。 基本的な生活習慣の定着ができていない生徒や体調を崩し欠席が目立つ生徒の増加により、達成が難しい項目もあるが、保護者と連絡を取り合い、学校全体で情報を共有しながら、基本的な生活習慣を確立させたい。 登下校時の通学路の見回りに加え、今年度後半からは、毎朝の伊予小松駅周辺の立番も行っている。外部からの連絡についてもすぐに対処しているが、ルール・マナーについて、講演やホームルームでの指導等を通して、自ら遵守できる生徒の育成に努めたい。		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>(3) 進路指導 生徒も保護者も、進路指導が生徒の進路実現のために適切であると考えているが、教職員の補習や模試に対しての評価が低い。コロナ禍の中での大学入学共通テストスタートやICT導入などで検討事項が多かったことも考えられる。インターンシップで、礼儀正しく意欲的で挨拶もよくでき、キャリア教育に積極的に取り組んでいることが分かる。</p> <p>(4) 特別活動 部活動については、対外活動が制限された中でも「充実している」と感じる生徒が増えている。運動部、文化部とも力を入れており、野球部の四国大会ベスト4や日本音楽部の全国総文祭出場などすばらしい。生徒が輝ける場ともなるので、一年生全員入部は続けてほしい。</p> <p>生徒会活動や奉仕活動など、生徒は、積極的に活動している。コロナ禍で制限のある中で、工夫した活動ができています。学校行事などの様子が、ホームページを通してよくわかるので、もっと全国に向けて発信してほしい。</p> <p>(5) 地域協働 文部科学省指定の地域協働事業が二年目となったが、新型コロナウイルス感染症の影響で予定通りに進まない中で工夫している。「小松未来塾」や「小松地区地域フォーラム」などの公民館事業への協力や小中学校への給食レシピ提供など高評価で、地域と連携した活動が更に活発になってきた。</p>	<p>課外や模試については、毎年生徒の状況に合わせて実施方法を見直しながら行っている。さらに部活動や学校行事などと両立できるような取組を行いたい。インターンシップについては、普通科と家庭科の実施日を統一した。コロナ禍の影響で、体験できない生徒も一定数いたが、新たな企業開拓も行うことができた。今後も事前事後指導を徹底させ、将来につながる体験とさせたい。</p> <p>コロナ禍の中で、活動が制限された部活動であったが、その中で工夫した活動を行ってきた。充実感や達成感を得ることに苦労しながらも、上位大会まで進む部活動もあり、一定の評価を得ることができた。各部の活動内容やよさを周知させ、まずは、部員確保による活性化に努めたい。</p> <p>生徒会活動や奉仕活動について、制限のある中での実施であったが、生徒は工夫して前向きに取り組んでいる。学校生活の様子がホームページを通して、よくわかるとの評価を得た。今年度アクセス数もかなり伸びており、今後動画配信などで更に楽しめるホームページを構築したい。</p> <p>文部科学省指定の地域協働事業が来年度は最終年度となることで、二年間の成果を生かし、更に地域と連携した取組を行いたい。また、取組が地域の活性化につながるように、地域協働事業終了後も幼小中との強固な連携や地域団体との協力体制の持続可能なカリキュラム編成を確立させたい。</p>
<p>2 学校運営への提言 「学校通信」「保健だより」「図書館だより」や、人権・同和教育課からの「きらり」、人権ポスターや人権標語などとても見やすく、役立つ情報が掲載されている。ホームページでも毎日タイムリーな情報を発信されている。今後とも地域と一体となって「魅力ある学校づくり」に努めてほしい。</p> <p>この一年、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために、今まで経験したことのない社会情勢の変化が心配された。しかしながら、校長のリーダーシップの下、生徒、教職員、保護者が一丸となって克服をしてきたことが、学校評価アンケートにも出ている。昨年度生徒において、評価が低下傾向にあったが、今年度は上昇しており、多様化する生徒に目を向けてきた成果と考える。</p>	<p>各種通信やたよりも、定期的に発行する中で、内容の精選や改訂を行い、読み手に興味を持ってもらえる編集を心掛けている。ホームページによる情報発信も日々新しいものを掲載し続けており、今後も小松高校に興味を持ってもらえる内容を充実させたい。</p> <p>教職員からの提言について、今まで年度末に確認し、改善策について検討していたが、複数回行うことで、よりよい学校運営に結び付くのではないかと考えている。</p> <p>生徒は、地域との協働事業で、問題解決能力や情報発信能力が向上している。ライフデザイン科・普通科とも、地域課題についての探究を実施することによって地域理解を深めている。今後も伝統を継承し、地域とともに歩む学校として信頼を得たい。</p>